

会員総会礼拝奨励

熊本YMCAの心意気

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
川尻キリスト教会牧師

高口喜美男さん

熊本YMCAが地方都市にありながら、日本において注目される地域YMCAとして発展しておりますことをうれしく、また、誇らしく思っております。これは神様の恵みであることを覚えて感謝するばかりでなく、ここに集っておられる会員の皆様、また、スタッフの方々のたゆまぬ努力がもたらしたものであることを思い、祝意とともに敬意を表したいと思います。

さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことである」との聖書のみことばを掲げて歩んでまいりましたが、堤総主事は今年2月のマンスリーレポートで「熊本YMCAは、本当に『最も小さい者』と共有のか」との自問を発しておられました。このような、掲げた目標に対する真摯な自己吟味が私たちのYMCAを一歩ずつ、目標に近づかせてくれるのです。

さて、総会にあたり、読まれた聖書のみことばは、3カ年計画を導くものとして与えられております「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマの信徒への手紙12章15節)です。この聖句は多くの人に愛され、記憶されていますが、このことを可能にさせてくれるのは、実に、キリストが「愛されるに値しない私を愛し、赦されるに値しない私を赦してください」という自己認識から生まれるものではないでしょうか。先の3年間、熊本YMCAは「最も小

さい者の中の一人にしたのは、私にしてくれたことである」との聖書のみことばを掲げて歩んでまいりましたが、堤総主事は今年2月のマンスリーレポートで「熊本YMCAは、本当に『最も小さい者』と共有のか」との自問を発しておられました。このような、掲げた目標に対する真摯な自己吟味が私たちのYMCAを一歩ずつ、目標に近づかせてくれるのです。

されたものが中央YMCAの紫苑会室に今も掲げられています。この理念のゆえに、設立と草創期の困難を喜びをもって十字架を負われた方々の献身的奉仕が熊本YMCAの揺るがぬ礎となったのです。そして、それを受け継いでここに至るまで、実に有能な職員の方々、また、社会での経験豊かな多様な会員の方々、さらにワイズメンズの皆さんの協力のもとに熊本YMCAは発展を続けてきたのでした。

けれども熊本YMCAは現在、

取り巻く状況と厳しい変化への対処を強いられています。最近「公益財団法人」認可という高いハードルに挑戦してまいりました。「一般財団法人」に妥協すれば、もっと楽でしたが、妥協を拒み、敢えて、狭き門に挑み続けさせたのは熊本YMCAの心意気だったと思います。昨年6月のマンスリーレポートで堤総主事はYMCA創設の理念を振り返り、「YMCAは様々な問題の中で、一貫して公益に資する団体として、営利を追求するた

めでなく、使命を具体化していくために活動してきたのだ。従って、公益財団法人として認定されるの

は当然である」という自負を訴えておられました。心に熱く感じるものがありません。「公益に資する」とは、まさに「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」姿勢から生まれるものであります。皆さん、共々に、熊本YMCA創設の理念に基づき、誇りともいえるべき、この自負心を担ってこれからも進んでいこうではありませんか。そして、その中でこそ「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」とのキリストのみことばを追い求めていこうではありませんか。

会員総会の冒頭に持たれておりますこの礼拝こそ、YMCAを社会の変化に対応しつつ事業展開の困難に立ち向かう力、それを「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」とのみことばに従いながら継続していく力、実にYMCAをYMCAたらしめるための力を神様からいただく祈りの時なのではないでしょうか。



高口喜美男さん

アガへ No.63 私たちにできること

総主事 堤 弘雄

4月末の発表では東日本大震災では死者1万4662人、警察に届け出があった行方不明者は1万1019人でした。幼い子どもからお年寄りまで尊い命が震災によって奪われました。今回の災害の犠牲者や津波で荒れ果てた景色を前にして、これらの出来事を自分の中でどのように受け止めればいいのかわからなくなってしまいます。

私たちは、お亡くなりになった方々のために、肉親や知人を失い悲しみの中にある方々のために、何かしたいけれど残念ながら何も成す術を持たない自分自身の無力さを覚えます。しかし、よく考えてみると私たちにもできることがいくつかあることに気づかされます。その一つは「祈る」ということです。本来「祈り」とは神様に語りかけることを意味しています。神様に自分の気持ちや思いを率直に伝えることにより、見えないたましいの世界につながることが出来ます。お亡くなりになった方々の御霊(みたま)の平安と、肉親や知人を失われ悲しみの中にある人々の上に神様の慰めがあるように共に祈りいたしましょう。

ある村に昔、津波の被害を受けた経験のあるご先祖様が残した石碑があり、このように書かれていました。「これより下には家を建ててはならず」そのメッセージに忠実にしたがって家を建てた村人たちは、津波の被害を受けずに助かったという話を聞きました。私たちも多くの人の犠牲を無駄にしないためにも、何か未来にメッセージを残す責任があると思います。後世に残すべきものと残してはならないものを、真剣に考える使命があると思います。それは、原子力発電の問題や私たちの生活のあり方、人間同士の絆やコミュニティのあり方など、たくさんあると思うのです。

REPORT

西日本地区リーダー研修会

開催日/2011年5月3日(火)〜5日(木)
開催場所/北九州市立玄海青年の家



西日本地区で活動するリーダー40名が集い、熱い研修会が行われました。テーマは「キャラクターデザイン」のワークショップ4つの願いから考えよう。基調講演やワークショップを通し、日頃の活動の中でいかにメンバーと一緒に大切な価値を学べるかを話し合いました。

熊本から参加した5名のリーダーは「リーダー同士の仲が深まる内容も多く、研修を通じて絆が強くなっていくのを感じた。熊本でさらに活かしたい」と抱負を語ってくれました。

ながみねファミリーYMCA 矢野敬一

熊本YMCA学院スポーツデー

開催日/2011年5月20日(金)
開催場所/中央YMCA体育館 熊本県立総合体育館



YMCA学院では、スポーツを楽しむ交流を深める、スポーツデーを開催。当日は日本語科の学生、高等学校の生徒を含め約500名が参加し、フットサル、ソフトバレーボール、バスケットボールに分かれスポーツを楽しみました。実行委員の笑顔が最大の喜びでしたという感想が聞かれ、楽しいスポーツの一日となりました。

YMCA学院 池山昌吾